

# ア ウ ト リ チ

通信



第 26 号

2015 年 9 月 20 日発行  
年 2 回発行

神戸女学院大学音楽学部  
アウトリーチ・センター

子どものための

コンサート・シリーズ

七タコンサート

「子どものための七タコンサート『音楽のお弁当箱』」輝く世界へ★レッツゴー!」(「子どものためのコンサート・シリーズ」第四十二回)を七月四日(土) 本学講堂で開催しました(第一部 十一時開演、第二部十五時開演、来場者数・第一部三八六名/第二部一九一名、計五七七名)。

出演は今年のアウトリーチ履修者を中心に、声楽(神田幹子)、ピアノ(尾形佳那恵、丹野桃子、



曲)で、曲中に楽器と奏者の紹介を交えました。

挨拶の後、マリンバを紹介し

藤井友理、和田悠加)、ヴァイオリン(尾崎文子)、オーボエ(樋口成香)、フルート(岡亜梨沙、喜多望有、田中佑奈、藤森友香)、ハープ(赤木愛枝)、打楽器(山田りさ、第一部/山下すみれ、第二部/山本瑞葉)の十五名が力を合わせました。

開幕はイエッセル作曲  
(おもちゃの兵隊の行進)  
(松尾璃奈編



「元気な声が上がりました。」と元氣な声が上がりました。

次にヴァイオリンが登場し、四本の弦は羊の腸、弓は馬の尻尾と紹介して、エルガー作曲(愛のあいさつ)を演奏しました。

続いて、ピアノには二三〇本もの弦が張つてであると説明して、

て、カバレフスキーの組曲(道化師)より第二曲(ギヤロップ)をマリンバ二重奏で演奏しました。司会の「どこかで聞いたことありませんか?」という問いかけに、会場から「運動会!」と元氣な声が上がりました。



《ラ・ボエー

ドビュッシーの(亜麻色の髪のおとめ)をピアノ独奏しました。「とびきり魅力的で皆の視線を釘づけにして歌う人があちらから歩いてきましたよ」と紹介して、プッチーニ作曲

ム(よりムゼッタのアリア)が街を歩くと)を歌いました。喉には声帯があり、それを震わせて歌っていることを説明し、「皆さんも喉に手を当てながら声を出してみてください」と言うので、子どもも大人も喉に手を当てて声を出して確かめていました。

ここで会場後方からステイックを叩きながら奏者が登場し、グラジメツツ作曲(アスベンチユラス)を演奏。スティックや

各種のマレット、ワイヤーブラシなどでスネアドラムの枠、胴、皮を叩き、一つの楽器から多彩な音色が出ることを知ってもらいました。



次にオーボエが登場し、葦を削ったリードを震わせて音を出すこと、音色が

いとされることを話し、チャイコフスキー《白鳥の湖》より《情景》をハープ伴奏で演奏しました。ここでハープはペダルで音の高さを変えていることを説明しました。続いてフルートが登場し、エア・リードで鳴ること、今は金属だが昔は木製だったので木管楽器に分類されることを説明し、チャイコフスキーの《眠りの森の美女》より《ワルツ》を演奏しました。

ここでガラツと雰囲気を変え

て《お弁当箱のうた》で身体を使ったリズム遊びを始めると、子どもたちも声を合わせて体を動かしてくれました。続いて《お弁当の気持ち》という履修生で考えたリズム遊びをしました。



「トマト」「ピーマン」「から揚げ」「卵焼き」の四つがそれぞれのリズム遊びで、最後は子どもも大人もみんな一つになり、大きなアンサンブルができました。第二部ではシールを貼ったプログラムを準備し、当たった子どもたちを舞台上げ、出演者と一緒

に会場のみんなに合図を



送ってもらいました。

次にフルート四本のアンサンブルでモーツァルトの《魔笛》

序曲を演奏し、主旋律のやり取りに耳を澄ましてもらいました。

「日本にもこんなに素敵な曲を書いた人があるのですよ」と紹介して武満徹《小さな空》を独唱。

「連弾」の説明をしてからラヴィニヤックの《ギャロップ・マ

ーチ》をピアノ

ニスト四人の八手連弾で演奏しました。

曲の途中で手が空くと、トランプをした



り、鏡を見てうっとりしたり、楽しいパフォーマンスでした。

講堂のあちこちから登場する

演出でモンテ作曲《チャルダッシュ》をピアノ、ヴァイオリン、オーボエ、フルート、マリ



最後は奏者全員が舞台上でアンサンブルをしました。

全員で下総皖一作曲《たなばたさま》を歌った後、各楽器を復習して終演しました。

今年のアウトリーチ履修者は管弦打が揃っており、「多様なアンサンブルや音色を聞けるものになりたい」という気持ちから、味付けや取り合わせで選り取り見取りにできる「音楽のお弁当箱」という副題を付けました。

終演後にはヴァイオリン、フルート、マリンバの楽器体験と、「しゃかしゃか・シェイカー」の楽器工作とを行い、それぞれの行列ができるほどの人気でした。

(山田りさ・記)

## 学外アウトリーチ

雲雀丘学園小学校

(二〇一四年度生)

十二月十七日(水)、雲雀丘学園小学校(宝塚市雲雀丘四一―一)の音楽室で、四年生の四クラスを対象にアウトリーチ実習(各四分)を行いました(ピアノ・今川裕美、中川真帆、上田美幸、声楽・城井礼衣子、寺脇優子)。



今回は「楽器の王様! ピアノの魅力を知ろう!」というテーマで、まずバリー・マクガイア、ランディ・スパークス作曲(グリーン・グリーン)を歌とピアノで演奏しました。

次にピアノソロで時代の違う二

曲、モーツアルトの(キラキラ星変奏曲)より主題と三つの変奏と、プロコフィエフの(ロミオとジュリエット)組曲より第六番を演奏。



初期の「フォルテ・ピアノ」から今の「モダンピアノ」への進化の歴史を話した上で、生徒全員にピアノの中

を覗いてもらったり、用意した模型で音が鳴る仕組みを見てもらったりしました。この模型には生徒も先生も興味津々で盛り上がりました。



続いてオツフェンバックの(天国と地獄)より(序曲)をピアノ

連弾で演奏し、ソロとの迫力の違いを感じてもらいました。

次に、想像しながら曲を聴くことで、ピアノの表現の可能性を知ってもらいました。曲はサン＝サーンスの(動物の謝肉祭)より(亀とカンガルー)で、生徒たちは曲が表している動物の動作等を聴き取って、



自分の意見を積極的に発表してくれました。いろいろな意見が出ておもしろかったです。

主役だったピアノがここからは伴奏に回ります。アンドリュ・ロイド・ウェバーの(ピエ・エイズ)を二重唱で演奏した後、みんなと一緒に(ジングル・ベル)(きよしこの夜)(あわてんぼうのサンタクロース)を歌いました。曲に合わせて身体も動かし、鈴とタン

ブリンも入れて、楽しく歌うことができました。

それぞれ雰囲気は違いましたが、四クラスとも素直で反応がよく、話し易くてやり甲斐がありました。

今回の実習では、音楽の山本雅子先生、岡村圭一郎先生、藤原道代先生を始め、各クラスの担任の先生方が協力してくださったお陰で、このプログラムをよい形で実施することができました。この経験を活かしていきたくです。



(上田美幸・記)

三月五日(木) 十四時から、国立病院機構刀根山病院(豊中市刀根山五丁目一―二) B棟二階ホールにて「春色コンサート」

(六十分)を行いました(声楽・寺脇優子、城井礼衣子、三木理花絵、フルート・鈴木晴子、ピアノ・今川裕美、上田美幸、中川真帆)。



た。まず出演者全員でマクガイア&スパークス(グリーン・グリーン)を歌った後、プッチーニのオペラ《ジャンニ・スキッキ》より「私の大好きなお父さん」をソプラノのソロで演奏。次にブラームスの《ワルツ》作品三十九より第一、十一、十五番をピアノ連弾で演奏し、三つのワルツの雰囲気の違いを楽しんで頂きました。

次に、岡野貞一(春の小川)をバックに、深呼吸や手を伸ばしたり首を回したりする体操を会場の皆様と行いました。身体が少しほぐれたところで、季節の歌を三曲、中田章(早春賦)、

岡野貞一(春の小川)、滝廉太郎(花)をお客様と一緒に歌い、春を感じて頂きました。



続いて大島ミチル(風笛)をフルート独奏で演奏。演奏前にインタビュー形式でフルートの豆知識を紹介したところ、お客

様の反応がとてもよくて、お客様との距離が一気に縮まってきたように感じました。



ブラームス《ハンガリー舞曲集》第五番をピアノ連弾で、モントゥイ(チャルダッシュ)をフルート独奏で演奏し、ハンガリーの民族的な音楽を楽しんで頂きました。次に、春メドレー(ど

じょっこふなっこ・春が来た・この道)をフルート、ソプラノ、ピアノのアンサンブルで演奏した後、石若雅弥の「わたしと小鳥とすずと」をソプラノ独唱で演奏。金子みすゞの詩の歌とあって、興味をもって聞いて下さ

いました。最後に、岡野貞一(歩こう)をお客様と一緒に歌って、コンサートの締めくくりと

しました。

今回の実習が今年度の最後で、一年間の集大成の場でした。出演者が一人、就

職先の研修で出られなくなつたのは残念でしたが、メンバーみんなで積み上げてきたものを出せるように心をつとめて演奏しました。



会場の皆様から温かい笑顔や拍手、言葉を頂いたからこそ、音楽を通してお客様と一つになれたと思います。

(中川真帆・記)



アンサンブル・おととつと

くあの日出会った音はずっと忘れないく

アウトリーチ七期生

松本真奈

「アンサンブル・おととつと」は、アウトリーチ七期生の私（声楽）と東瑛子（ヴァイオリン）に加えて、私に通っていたリトミック指導者養成校で知り合った奥田藍（ピアノ）の三人で三年ほど前に結成したアンサンブル・グループです。グループ名の「おととつと」は、「音音音・三つの音・私たちの音が織りなすハーモニーを皆様に届けよう」という思いで命名しました。結成のきっかけは私が二人に声を掛けて、たくさんの人に音楽を届ける活動をしないかと誘ったのが始まりでした。学生時



代にいろいろな場所にアウトリーチ実習で行きましたが、幼稚園や教育機関を訪れた時に、子どもたちをもっと惹きつける音楽を創り出せないかと考えた時期がありました。そんな時、「リトミック」と出会いました。リトミックとは、音を聴いて考え、体を動かすことで集中力や判断力、人間が生きていくために必要な能力を育むことを目的とした0歳からの音楽教育です。私が探していたものはこれだと思

って、すぐにリトミック指導者養成校に通い始めました。演奏を聴くだけでなく、共に音を感じて創り出す、そんなコンサートをめざして活動したいと考えました。同じ志を持つ二人の仲間を誘い、0歳から

対象とした教育プログラムや、医療・福祉施設でのレクリエーション・コンサートなどを企画し、演奏活動を行っています。主な活動として、年に四回、「トーン up」や「トーン up」や「トーン up」というリトミック・コンサートのシリーズを行って、毎回多くの方に来場頂いています。先日行った回では「宇宙」をテーマとし、ロケットに乗って星座を見つかったり、宇宙人に会ったり、子どもたちの想像力を掻き立てるような内容としました。ピアノ、ヴァイオリン、歌の音色を存分に楽しんでもらいながら、ビートに合わせて膝を叩いたり、タンバリンを使って一人ずつ返事をしたり、まねっこポーズをしたり、聴くだけでなく、共に音を楽しむことを目標とし



たプログラムを考えています。関西にとどまらず全国各地で活動しており、神奈川県川崎市にあるミュージザ川崎シンフォニーホールでは毎年「0歳からのミニコンサート」に出演させて頂いています。毎年たくさんの子どもたちに音楽を届けることができて、すくすくと成長する姿を見るのが何よりのごほうびです。



今後子どもから大人まで楽しめる音楽、ずつと心に残る音をめざして活動していきたいと思えます。ブログ (<http://ameblo.jp/ottotto-de-music>) やメール ([ottotto.de.music@gmail.com](mailto:ottotto.de.music@gmail.com)) もありますので、是非ご覧になってみてください。

## 卒業後のアウトリーチ活動

アウトリーチ九期生  
丹波友里

音楽学部を卒業して四年目の丹波友里(M二二八回生)です。

私は現在、幼稚園、小学校、病院、美術館、公民館など様々な場所でアウトリーチ活動をしています。毎回、先方との打ち合わせを念入りに行い、会場の雰囲気合うプログラム作りをしています。その際に私が大切に行っていることが三つあります。

(一) クラシックにカジュアルさを加えていつもと異なるテイストで紹介する、(二) 見て楽しめる要素を取り入れる、(三) 聴衆参加を組み込む、の三点です。これを、二〇一四年十二月二十日に声楽の坂田真生とピアノの増林恵里香(旧姓浜野)と三人で出演した兵庫陶芸美術館でのクリスマス・コンサート为例

に説明します。

お客様(幅広い年齢層の約八十名)と音楽を通して一体となりたいと願って「人と音との響き合い」をテーマにアンサンブル中心のプログラムを組みました。

(一) の実践としては、山口景子編曲(ヘクリスマスソング・メドレー)(ピアノ、声楽、ヴァイオリン)をピアノと歌声にグロツケンを乗せてクリスマスらしいかジュアルな音色としました。(二) 見て楽しめる音楽として、



春畑セロリの(ヴェオルフガングの玉手箱 モーツアルト名曲メドレー)を三人でぐるぐる入れ替わりながら連弾する「ぐるぐるピアノ」で披露し、管楽器のように両手で奏でるスタイル(写真参照)の



鍵盤ハーモニカで(サウンドオブミュージック・メドレー)と(クラリネットポルカ)を演奏。普段あまり目にする事のないパフォーマン

ンスに、予想通りお客様から驚きの声が上がりました。

(三) 聴衆参加としては、アンダーソンの(シンコーペーテッド・クロック)を選びました。お客様にウッドブロックのリズムを覚えてもらい、一緒に膝打ちして頂きました。リズム練習

の際、むずかしいリズムには「ガリックパン」や「バットマン」と言葉をつけて工夫したので、親しみを感じてもらえたようです。笑顔があふれて会場に一体感が生まれました。さらにプログラムに挟んだ歌詞を見ながらクリスマスソングと一緒に歌っ

て頂き、温かい雰囲気の中、演奏を終えることができました。

卒業して四年、その間に大学院から紹介頂いた演奏活動をきっかけに、新たな演奏の依頼を頂いたこともあります。例えば、昨年六月の夙川公民館での演奏をきっかけに、西宮のラジオ放送「さくらFM」に出

演した他、夙川小学校での特別音楽授業が実現しました。



音楽を通して人と繋がりを持てる喜びは何物にも替えられません。これからも私自身がいるなすばらしい音楽と出会い、それを演奏で伝えていきたいように、精進していきたいです。

## 今後の活動

### 第六回 音で遊ぼう！

#### 子どものための

#### 音楽作りワークショップ

「音で遊ぼう！子どものための音楽作りワークショップ」を九月二十七日（日）十三時から本学音楽館ホールで開催します。

これは英国ギルドホール音楽院で長年、培われて来たクリエイティブ・ミュージックの優れた精神とプログラムに学ぶ形で、二〇〇七年から〇八年、一二年、一三年、一四年と実施してきたもので、今年が六回目です。

今回は、同校リーダーシップ・コースを修了後、ロンドンを中心に欧米各地で（ニューヨーク・フィルハーモニックを含む）様々な団体と活動を展開している実力派の二人を日本に招聘します。アメリカ人のチェリ

ストで作曲家のナターシャ・ジ

エラジンスキと、イギリス人の

フルーティストで音楽作りプロ

ジェクト・リーダーのデッタ・

ダンフォードです。本学卒業生

と同じギルドホール音楽院リ

ーダーシップ・コース修了生の

東瑛子（M一二五回生）も講師

陣に加わります。九月二十四日

（木）から四日間、学生対象の

「音楽作りワークショップ特別

研修」を行い、その仕上げとし

て最終日に近隣の子どもたちの

参加を得て実施するものです。

誰もが秘めている音楽的なア

イディアを楽しく引き出し、お

互いをよく聞いて、それらを組

み合わせて行く作業は、音楽の

もつ根源的な力と可能性を改め

て認識させてくれます。在校生

とMC講座の既習生は無料で、

子どものためのクリスマス・コンサート

「子どものためのクリスマス・コンサート」音楽をイメージするってなあに？」（「子どものためのコンサート・シリーズ」第四十三回）を十二月十二日（土）に神戸女学院講堂で開催します（十一時と十五時半の二回公演）。

出演は本学卒業生の大浦春菜（ピアノ）と西脇恭子（ピアノ）の二台ピアノを中心に、菊本恭子（ヴァイオリン）、土井茉莉（ヴァイオリン）、黒田育世（チェロ）、蔭山晶子（クラリネット）、今中ゆり（お話）の諸氏です。

今回のコンサートは、「音楽は言葉や絵画のように目に見えるものではない。だからこそ様々な想像を可能にする。それは自由であり、それこそが音楽の醍醐味」という考えに立って、子どもたち

#### 子どものための

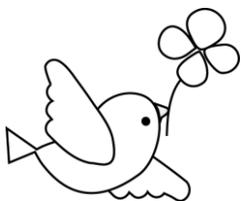
#### クリスマス・コンサート

にさまざまなイメージを自由に思い浮かべてもらおうとするものです。

曲は、サン・サーンスの《動物の謝肉祭》を中心に、モーツァルト《きらきら星変奏曲》、アンダーソン《そりすべり》、クリスマス・ソング・メドレーほかを予定しています。

終演後には、フル・コンサート・グラランド・ピアノを始め、ヴァイオリン、パーカッションなどの楽器体験も行います。皆様、どうぞお楽しみに。

（アウトリーチ・センター長  
津上智美）



## ♪今後の予定♪

### ◎アウトリーチ

2015年10月15日(木) 神戸市立医療センター中央市民病院  
2015年10月23日(金) 兵庫県立姫路しらさぎ特別支援学校  
2015年10月30日(金) 国立病院機構 兵庫中央病院  
2015年11月13日(金) 西宮市立鳴尾北幼稚園  
2015年11月21日(土) 野木病院  
2015年12月8日(金) 雲雀丘学園小学校  
2015年12月15日(火) 西宮市立門戸幼稚園  
2016年2月16日(火) 大阪市民病院機構 大阪市立総合医療センター  
2016年3月10日(木) 国立病院機構 刀根山病院

### ◎ワークショップ

「第6回 音で遊ぼう！子どものための音楽作りワークショップ」

日時：2015年9月27日(日) 13:00~17:00

場所：神戸女学院大学 音楽館ホール

講師：英国ロンドン市立ギルドホール音楽院リーダーシップ・コース修了者3名

対象：小学生・中学生・高校生 先着40名

参加費：無料

応募方法：アウトリーチ・センターのホームページをご覧ください。

### ◎子どものためのコンサート・シリーズ

「第43回 子どものためのクリスマス・コンサート ~音楽をイメージするってなあに?~」

日時：2015年12月12日(土)

第1部 11:00開演(年齢制限なし、未就学児対象)

第2部 15:30開演(小学生以上対象 ※未就学児のお子様は入場できません)

会場：神戸女学院講堂

出演：大浦春菜、西脇恭子(ピアノ)、菊本恭子(ヴァイオリン)、土井茉莉(ヴィオラ)

黒田育代(チェロ)、蔭山晶子(クラリネット)、今中ゆり(お話)

入場料：大人500円、子ども(19歳以下)300円

応募方法：アウトリーチ・センターのホームページをご覧ください。

## 音楽をお届けします！！

「アウトリーチ」とは、「一歩踏み出すこと」「手をさしのべること」。

大学やホールといった従来の枠にとらわれずに、社会のさまざまな場ですてきな音楽のプログラムをお届けします。

♪**小中学校へ**：総合的学習支援プログラムとして、  
子どものための楽しい体験学習を！

♪**病院や美術館へ**：催しの趣旨に沿った手作りの音楽  
プログラムを、心をこめてお届けします。

お問い合わせは…

神戸女学院大学音楽学部 アウトリーチ・センター(月~金 10:00~15:00)

〒662-8505 西宮市岡田山4-1

TEL: 0798-51-8584 FAX: 0798-51-8551

E-mail: outreach@mail.kobe-c.ac.jp

http://www.kobe-c.ac.jp/musicdp/outreach/

## 編集後記

後期からは学外でのアウトリーチ活動が目白押しです♪(寺澤)

今年の履修生はとってもパワフル!!新スタッフと共に頑張ります!(森)

前期があつという間に過ぎていきました!後期も引き続きがんばります♪(増田)

4月から勤務しています。よろしくお願ひします!(朝山)

今号には卒業生2人の活動報告を掲載しました。それぞれ違っていてもおもしろいですね!(津上)